



13
2945
17



門へ13
號 2945
卷 17

待

鎮西八郎 椿説弓張月續編卷之五
鳥朝外傳

東都

曲亭主人編次

吉野
大田屋

第四十一回

松壽月前小妻の屍を躲そ
真鶴身後小主の首小代れ

廉夫人へ寧王女引こられ里之子松壽お扶掖せり。姑場の
かへと落しむるあふ討手の軍兵涌ごこしく出まりて脱果へり
もあふびこれかともかくもあふりなれ一方の圍攻とほして王女後
中とく落し進せんとして忽地お自殺しむる松壽ハせむさく。
おん首級取あがりて。利勇が陣お赴た信やうみらひらへて。圍
攻解せんと謀れども。利勇元來狐疑あつれば。なほ兵士を退
けど。その方と野嵩のほとりに免して。里の悪少年あふ分附。

春兎弓張月續編卷之五

昭和九年
七月九日
終末

王女の往方ハ撈索すること。いと急なるに。松壽ハまことこころ
苦しけしど。氣多めのえせじて。あゝとび王女ハ追ひ捕へたはし
まうし。婿と。姑場ののこへまうし。あゝとび。いふもして王女ハ環會なり。
緯の越ハ告進せし。脱とまめまうし。のりももに脱と。り脱と
かゝるハ太刀の刃ハ後ハ行ハ。あゝとびに防た戦ハ死出の御導ハ
いこまもして。只管おひひ定めても。定めがたハ与那城。こころ安
勢里の村稍盡処。何地へ伊討の御らち過く。野を越山と越馬の
かゝり。いこまも手負なるのども。或ハ肩ハ引け。或ハ戸板ハ扛
乗してまゐるりのありまうし。松壽ハこれをえし。あゝとび。証ハ村長
めれと。お翁をまびとまめて。縁故と問を。そのりの答も。吾侪と
姑場の御民。あゝとび。まうし。のども。城隍祭祀ハ出く。お不意

り南風原の親方判の仰ハ稟。寧王女ハ捕捕て夥の賞錢を
まうし。ん為ハ夥計の壯伎ハも謀ハありし。越来ハ石橋乃
上あく。王女主従ハ追ひ著。矢庭ハ移まるとして。閨ハ。侶
ハ。女房をうち殺して。いひ。誰ハあゝとび。王女ハ。あやした
神の憑て。膂力ハ百人ハ合ハ。器械とらして。縦横を
早に働れ。あゝとび。作ハ。饑ハ。虎の群。羊の中へ走り入りし
ハ。異ハ。當ハ。頼ハ。薙伏せ。砍ハ。あゝとび。牛打
車切ハ。砍ハ。あゝとび。鼓拍ハ。子の胴切ハ。あゝとび。命
助ハ。稀ハ。翁ハ。愛子ハ。日暮親ハ。あゝとび。報
ひあや。胸ハ。刺ハ。あゝとび。死ハ。あゝとび。あ

こころと告あひしうれすてハ物をもりひつるふ。今ハ只蛇の息で
 かり。くつし熟くるこの草野も。うらみのと遠くおがゆる。親のこころ
 の闇をみあてて。年の齡も十六夜月の欲ふあけられ悪業を
 らしてのめが毛吹吹て疵を求也。後悔も是みる迹のあふる。
 神薬を昇で親あかすれ。子ども亦が死差死。いふせんとて
 かに口説。よくと泣は。よと泣きまらうとも。に啜わけて涙を濡ら
 すと白毛鬢。そりたる腰をうら伸し。おのが家路へかへりまて。
 松壽ハこれを目送つて。そのまは路の撃手とらん。王女のしつこ
 此とていん。いそく公りとる。とて。其処よりいよ。踏んかき死
 然未の石橋へ。と走りゆく。夜も日も。や没果て二日の月す
 かみ出たり。と見えは橋のこぼるへ鮮血敷。く流とこり。只

これ林間ハ紅葉ハ踏く。秋ハ惜しむ異あふらば。哀れなり
 真鶴ハ手いそ働ぬとおぼく。て全體傷うざれ。処もあ曲ぐ
 くれ橋の下ハ。俯しに倒と。松壽ハかれ景迹ハ胸すぐ。と
 かりつ。躄て砂下ア。と抱え起とも。らう。百千の強敵
 死。舞も退ける。ん。壯夫も。恩愛のそハ。中か。あて。雨のこく
 とも。り。落る。涙ハ。押拭ひつ。左辺。右辺を。見え。お。蝙蝠の飛
 か。外ハ。め。に。か。れ。の。な。な。れ。ど。な。ほ。人。や。や。く。と。て。声。を。ひ。そ
 ん。や。よ。真。鶴。之。魂。い。ま。と。天。ハ。あ。ら。は。五。魄。い。ま。と。地。ハ。い。ま。と。
 ハ。こ。が。い。の。め。が。や。ま。く。丸。い。れ。と。泣。る。物。夫。あ。れ。は。か。ら。ふ。は。妻
 あり。一世の安危を等しく。百年の苦樂ハ。共々。さる。偕老同
 究の契。孰く。他。お。あ。ふ。べ。た。あ。ら。れ。も。吾。們。ハ。忠。義。ハ。綿。糸。緑。糸

なれば妹夫といふも名のとめて外お過せし先陰ハ。うらことせ
山鳥の尾上ハ隔れ寝そくも恋しとおひんと恋しとも。しんご
とて忠臣節婦の鏡ともなれうらんとて。互母磨し誠心と神
も憐れとひるハ真和志の山の帯にさる。すゑ長川の鏡りゆ
て夫婦とつふよることゆふんととひりゆのを言語同断狩場の
雉子の矢お傷られ照射の鹿れ列子縄よ。かた別どのゆふんと
ハ。さうおさりの命なり。と飛たれ世は響けり。且して海ららる。
このこれおもあて愚癡なりけり。死しれ妻ハ歎くともかた
つぐととひかりふ。君真物の擁護あよる。王女を不思議に。
虎穴龍潭の危と脱とるも。そのゆ世おかれりハ中婦君
柳勇ホ。いよ。後やうて。草刈りもひ木と伐して。も索出さ

中のあるべに頼なれうら真鶴ハ王女とおひ。年お生れて廉夫人
の妹なれば。面影もよく消さる。今真鶴が首たけり。寧王女乃
おん牙がかりと。柳勇を欺たは。うらんと死し。更よ君も代る。
その忠その功。比んゆりのなるべまれど。狡猾奸雄る。柳勇が贖
頸を受へたや。縦利勇ハ欺くとも。幻術りて。千里の外も瞭然
と。これ。嘘雲ハいうふせん。とむかり。ゆして寧王女の。腹を果たさ
づ。もあふ。ゆらゆら。深く慮む。こそ。牙を捨てのら。浮心
もあれ。緯成ら。とハそれま。なり。と。柳勇を怒り。さ。嘘雲
次刺ん。翼々。天神地祇。さらい。か。いの。さん。さん。さん。お。つ。お。
くの。さん。さん。さん。の。を。り。が。嶽。の。山。れ。神。三。十。六。島。の。お。ら。ら。ら。
二郎五郎の神童お至る。とて。邦國衛護賊臣退治の。八。千。銚



松崎越来
亡妻の首級を
探して
死す

りて。利勇、矇雲ホ、眼ヲ遮テ。亡妻の首をりて。王女の...
お代らせ多くと公の中お折し。かぐて其の首を破りて。錦
の半臂お押裏と屍を川へ衝流して。刑のごとく水葬し。其
世に契れ妹と夫の縁。果敢なれば月魄も。おらて往方を定
ららね。王女のうへお恙なく。恨へ仲田の御平安坐上原後
あし。野高の屯へ走ゆえり。そのと利勇ハ。野高の屯
て。かろく動く。越来の石搦めて。悪少年ホガ。寧王女ヲ捕
捕らんとし。悉く病ヲ負半死半生なるよしと笑て。大に呆
と。おぼくびて。王女と智通人と。識とれ折り。里之子
松壽。ゆり。某越来の属村なる。照屋安慶田の同
母。幼なく王女お追著て。ひしが。王女お。あやれ神さとの憑

るおあや。生平にうりて。いと猛くえり。氷なるを。劔に引提く
在る。お代面も。あやれ。撃てか。刀尖より火出れ。追つて。追つて。追つて。
挑む戦ふ。お代。あや。こも。あり。王女ハ。遠あ。衰へ。勢ひ。究
了て。お代。お代。忽地。捉り。引伏。お代。頸う。落し。お代。熱
物の憑。狂。なれば。生拘。お代。及。お代。遠。憾。お代。お代。
かお。述。お代。真鶴。お代。首。お代。出。利勇。眼。あり。て。質。頭。心。
と。いら。ん。お代。その。舌。お代。引。せ。ど。安。危。お代。中。お代。決。て。お代。
近く。前。お代。ひ。大臣。実。檢。した。お代。お代。利勇。お代。お代。お代。
右。お代。燭。お代。兼。お代。これ。お代。お代。お代。お代。お代。お代。
道。級。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。
く。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。お代。

あつて。かかれ大功成しそつれし。感激お堪と。首里おまのり。律
 の越をゆえあげふ。勸賞行つべし。中婦君の結ぶひもつ人。誘
 多くといひつて。俄頃諸方の軍兵。引揚。蕉火敷りて。は
 て。通霄踏火しそつれ。その曉が。都へ入りぬ。松壽と。いと公の
 也ひける。小輒く。利勇と。謀り。ゆく。且。且。怪。真鶴が。面影を。
 頗。王女。似。れ。も。ま。ま。び。て。玉。と。燕。る。の。ご。と。く。形。に。利。勇。が。
 手。も。つ。り。も。疑。う。れ。は。足。さ。る。み。お。め。は。王。女。の。純。孝。夫。人。の。節。義。
 成。君。真。物。の。憐。れ。て。か。く。さ。う。し。し。ゆ。め。ま。こ。と。と。いと。憑。く。せ。ひ
 去。る。が。意。も。め。ら。て。い。よ。利。勇。に。海。婿。不。ど。に。利。勇。も。こ。と。成。
 二。三。の。り。の。ま。り。と。して。心。腹。こ。と。く。く。う。ち。あ。り。て。お。の。輔。と。化。す。
 る。く。昵。と。か。と。ら。ひ。ま。り。さ。つ。ね。お。尚。寧。王。ハ。矇。雲。ハ。幼。術。不。魅。

されて忠臣節婦成殺し。世子併討して却これ成快し。此度乃
 勸賞行つべしとて。中婦君と相譚。矇雲もその昔。仰せ
 か。矇雲うけまうりて。利勇成國相とし。松壽成東風平の按司
 と。と。當。下。尚。寧。王。ハ。只。顧。矇。雲。成。稱。嘖。し。ま。れ。國。師。の。直。言。小
 よ。つ。て。王。女。ハ。毛。國。典。う。花。子。を。れ。を。曉。ぬ。既。お。逆。徒。ハ。誅。つ。只
 お。ほ。つ。つ。な。れ。ハ。中。婦。君。有。身。て。その。兒。の。生。う。日。遠。く。ら。び。と。い。ふ
 且。し。の。疑。ひ。な。れ。し。も。ゆ。ら。び。ま。れ。老。て。位。成。候。へ。と。子。は。此
 り。お。偽。り。な。く。速。小。驗。を。え。ま。し。た。れ。と。宣。ま。れ。ハ。矇。雲。微。笑。て。
 殿。下。ま。ど。て。この。件。の。ゆ。の。と。成。疑。ひ。も。あ。曩。も。も。ま。う。せ。と。く
 中。婦。君。の。胎。内。に。や。ど。し。ま。ふ。此。子。ハ。權。者。の。後。身。也。と。い。は。し。ま。
 と。故。お。有。身。と。れ。を。守。る。と。え。ま。の。ら。び。と。い。へ。も。今。より。十。日。の。内。成。

あはして。ゆ子へ。いと安らうま生れまふ。そのとれふこそ。疑ひしと解
まふべけれ。とまらう。ゆふ尚寧王斜うらと。此の一日。國相利勇。お
仰。産養の准。依。以。まん。い。ま。じ。ま。ひ。る。有。が。も。中。婦。君。へ。あ。む
かりも。あ。お。ほ。え。う。て。子。と。産。ん。ま。あ。る。べ。う。も。何。ふ。ね。ど。指。の。神。子
な。れ。環。雲。が。ひ。う。は。誰。お。ま。う。せ。し。の。故。こ。そ。あ。ま。と。あ。ひ。え。山
ふ。利。勇。と。あ。ひ。て。國。師。の。ら。ひ。つ。る。ゆ。一。切。こ。う。を。は。げ。ど。こ。う。は。實。ま
子。と。産。べ。れ。欽。大。臣。と。い。う。お。ま。へ。る。と。國。相。利。勇。も。あ。く。ど。う。て。情
由。あ。は。ほ。腫。う。て。や。せ。れ。ら。し。し。丁。の。う。た。げ。お。ゆ。子。ひ。う。り。も。あ。ひ
ま。う。ら。う。お。羊。浪。ち。げ。く。ら。ち。あ。ま。る。五。十。ら。か。く。な。り。ま。ひ。て。孕。ま。あ
る。や。の。あ。る。こ。の。ま。環。雲。國。師。の。謀。あ。て。い。よ。改。を。ゆ。こ。は。任。し
進。ら。ま。え。ま。ふ。と。ま。れ。は。生。れ。ま。ふ。ゆ。子。の。中。婦。君。の。胎。内。あ。の。あ。ま。ど。

豫。く。阿。公。と。て。事。行。し。ゆ。人。の。遅。く。も。五。七。日。の。間。あ。は。り。て。身。の
ぞ。し。ゆ。こ。ろ。安。れ。と。低。語。あ。ぞ。中。婦。君。の。忽。地。満。面。小。笑。と。合。言。之。國
師。か。く。の。ま。く。奇。討。を。放。し。て。ま。ま。と。依。る。と。いと。欽。あ。べ。加。旗
毛。國。典。誅。伏。し。て。王。女。廉。夫。人。又。首。級。授。く。ま。ま。より。枕。を。高。う。て。
國。相。と。も。に。永。く。洞。房。お。樂。を。取。ら。へ。宿。を。ま。と。て。こ。こ。小。足。か。ん
こ。の。ま。環。雲。國。師。の。嘉。惠。う。ら。り。と。只。管。お。稱。嘖。し。て。ま。ま。や。う。お。打
笑。へ。の。利。勇。後。方。を。え。え。り。て。密。語。へ。文。しく。す。ん。か。ら。ば。垣。も。又。耳
の。り。秘。さ。べ。く。と。禁。あ。れ。ば。中。婦。君。の。慌。し。く。頬。又。搥。て。竹。ま。ひ。次
忍。び。鳥。改。の。あ。て。ま。ま。こ。れ。ぬ。

第四十二回

查國吉義お仗。中城。戦ふ
両孝子。轎を。搦。越。来。走。る

提牌金查國吉の毛國典が親族あてその公さま義と重し。命は狂しとすれ健雄なれば松壽が中城殿へまのりて王女と夫人を落しまわらせんといふあ任し。その身ハ駿馬は鞭を鳴り志く毛國典が家ハ馳ゆれ國典が妻新垣家子鶴二男龜不緯の慈父説示し父が送言ハ告あししてさましくお諫め勵し母子三人を後門より落さんとすれお家隸もくや縁由改めれきて慌忙にけりおのが走踏ハ索それの物を用いたつりのものゆゑ新垣とゆる羊の終より懐胎くくや臨月ハなりしふいとしく起居も自在なるに熱お脱と出るも手足まろつりあて便あくこそあめ母さびくは打捨お死て子どもららそ脱出よといそがじつ涙の外ハあつくに落んとも

せざりしを兄も母も孝心あくしてさめぐめりひにしらん母ハ轎お扶のし奴隸ともお昇せんとて叫びまゐるにりつのはらうと落失てさへ死まゐるに日暮ハ肩お物一お外とれるゆもなれ胞兄さう前またら後おなりて件の橋を擡出さんとすお兄ハ十五お一足とそ身とニッがアアてかひくしくハ挙動とさてもう何それ小腕あて母を昇りて走り入る路四五町が程も公りとなれと孝公ハ常うさづれお兄の身を勵しつお兄を諫めつ。查國吉が浅くね情の礼紺の絹も涙おこるぬ道芝の露と滴らん父がらん次さひおさお悼しく滅込ハ肩の痛より苦しれ胸ハ碎るてく生るうひがれ息杖もささげくささぬおあ竹のようやく足踏固めをまんとする秋の日と共お中りやく落ちてくる。浩処お利勇が先鋒の兵士四

五十騎并くと推寄来て前後の門より乱と入り。毛國典罪ありて既よ首級切られり。さるふよりて妻と子どもと搦捕て追せよ。と南風原の親方勢仰をらけり。吾們に分付せられり。再むえり。さしと縛受よとぞ。此時までも。查國吉と。ひとり後堂ありて。耳次側られこの処めて一柱さへえ。龜親子。忽地ふ追ひ詰りて。さる志も化とさる人。夫女子に已みあるりの為よか。さるはり。男子に己とさるりの為よ。死せよと。りり。百年の命は捨て。毛按司が年奉の恩も答り。この耐なり。と知りごら。奴と引捉て走り出。さるもほね。さるいふ。何人ぞ。これ嚮お仰をらけて。さるおま。いふ人とのせんよと。さる。汝ホ紫巾官の分付と。誹り。抜蒐してさる切と。さるん。さるん。

あやあらんさるん。いと嗚呼くと冷笑へ。早雄の壮校とも。さるの。さるは怒り。さる舌長し。查牌金汝を國典が妻子の討り。て向られれと。捉脱さるりやとて。かきめてさるれ。加勢れ軍勢なり。功と奪の欲とて。罵れ。いふそや。縦王金成叛くとも。孰の紫巾官の分付お。驚人。親子のりのを生拘たり。さるへ。遍さる。といりせも。あんと。查國吉眼を瞪らし。はしや。それ彼徒。汝搦獲よりとも。いりて。汝お。遍さる。加勢と稱して。乱入し。折よく。物取さるんとて。殺盗賊とも。足りとの。あう。方へ。さる。退。知よ。と罵れ。軍兵ホ。さる。怒り。查國吉。さる。あり。這奴り。あ。とも。に。搦捕てん。りの。いり。せ。と。罵散動。れ。戟を。舞。し。劍。さる。ち。振。り。吐。と。嘔。て。鏡。ひ。う。れ。を。查國吉。りの。とも。さる。出居。の。う。さ。さる。



高橋
 直國
 大
 中城
 血戦

塞^{あふ}て。二尺五寸ありされ^{つぎ}劍^{やき}拔^き挿^さひ。矢^や庭^ば四五人^{ごにん}と^あ破^やらじ。
 魚^{いさな}鱗^{うろこ}鶴^{つる}翼^{よく}も連^つつくる。大^{おほ}勢^{いきほ}が中^{なか}へ割^きり入り。巴^よの字^じ十^{じゅう}文字^{もんじ}も
 懸^か惱^{なう}と。草^{くさ}榻^たの外^{ほか}と^あ覺^{おぼ}の天^{てん}通^{つう}當^{たう}れを頼^{たの}ひよ。敵^{てき}さ伏^ふせ難^{がた}し。
 半^{はん}晌^{しょう}あまりの戦^{いくさ}も終^はむ。血^ちの流^{なが}して涿^{さう}鹿^{ろく}の野^のに溢^{あふ}れ死^しに横^{よこ}り。
 共^{とも}塚^{づか}の穴^{あな}も臨^{のぞ}み異^いうふ。その武^ぶ勇^{ゆう}悔^{くわい}りがくもひりか。野^のの
 軍^{いくさ}兵^{へい}辟^ひ易^いし。下^{した}うぐれに崩^{くずれ}とらして。門^{かど}外^{がわ}へむと退^{あひ}く。その
 查^さ國^{くに}吉^{きち}も小^こ子^この外^{ほか}と^あ腹^{はら}巻^{まき}の横^{よこ}縫^{ぬい}と。突^つ切^きられて。深^か疵^で救^{きう}箇^こ
 所^{ところ}負^おひけれ。今^{いま}これもなりて。関^{せき}捷^{せつ}破^はと。閉^し家^かも火^ひ火^ひ
 放^{はな}煙^{えん}も紛^まれ。忽^{たち}地^ぢも落^お失^しく。討^うちの軍^{いくさ}兵^{へい}へ此^{こゝ}形^{かたち}勢^{いきほ}もすく
 周^{しゅう}章^{しょう}やうやくに。門^{かど}扇^{あふ}が突^つ破^はて。咄^{はな}々^{はな}ひ前^{まへ}こ入り。す。火^ひ火^ひ
 りも滅^めんとす。折^しれも西^{せい}風^{ふう}烈^{れつ}く吹^ふて。瞬^まひ同^{どう}も。便^{べん}屋^や耳^{みみ}房^{ぼう}。

一^{いち}宇^うも残^{のこ}るに。灰^{はい}燼^{せん}となりしか。衆^{しゆ}皆^{みな}呆^{あは}れせん。とくもあはれ
 り。屍^{しかばね}やあねとて。灰^{はい}火^ひかたられ。彼此^{たつた}を索^{もと}もふ。それかとおひふ
 のは。この儘^{まま}もて立^たえ。ば。罪^{ざい}科^か脱^{だつ}とがさうれ。し。さていうふ
 まうして。身^みと全^{ぜん}うせん。と議^ぎす。小^こ賢^{けん}の軍^{いくさ}兵^{へい}もさうして。出^いて
 りあやう。り。何^{なに}の隨^まも。え。あ。げ。る。が。その。解^とを。責^せられて。ひ。ま。
 およ。し。あ。う。ん。ま。か。り。て。南^{なん}風^{ふう}原^{げん}の親^{おや}方^{かた}。勢^{いきほ}も。さ。う。さん。あ。ん。あ。ん。查^さ國^{くに}
 吉^{きち}二^にご。終^はりて。飲^の毛^{もう}國^{くに}典^{てん}が。妻^{つま}と子^こどもを刺^さし。家^{いへ}も火^ひ火^ひ
 放^{はな}煙^{えん}の中^{なか}に跳^はいり。死^しす。より。て。その。首^{くび}も。取^とり。て。獻^{けん}す。ひ。ま。
 はん。ふ。ま。で。う。吾^{われ}儕^{せい}も。罪^{ざい}せ。れ。ん。却^{かえ}て。か。さ。れ。恩^{おん}賞^{しょう}も。さ。う。
 又^{また}あり。さ。し。よ。り。必^{ひつ}死^しを。脱^{だつ}と。り。と。も。毛^{もう}國^{くに}典^{てん}が。子^こども。の。あ。は。れ。
 少^{おほ}し。查^さ國^{くに}吉^{きち}と。深^か疵^でを。負^おひ。ぬ。あ。う。れ。は。家^{いへ}を。喪^{うしな}ひ。狗^{いぬ}捨^すり。刺^さ

してこれ猪のごとく。あざむく程にわらふも。自滅せしむ疑ひはしと
 しめふ。衆皆つて。この後あらねばと。雷同して。怒れしる。自方の
 兵士が首がたれた。大にやうなれと。小さやうなれ。擇りて
 火の中へ投入し。焼爛して後め。これハ查國吉。かれハ毛國興が
 ふらりの。兒子鶴亀。それが母新垣が首なんど。絡く標の牌が
 耳あ結び著。これを携て。通霄利勇が跡を追ひ。詰且首里
 の都へ立ち入り。縛の越ええのげが。利勇ハ軍兵ホと旁ひ
 て。件の焼首が。実檢し。やがて國興が首級と共。小泊津に梟る
 に。焼爛とされば。その真偽があるのし。只松壽のこ。こまに
 入る。竊小冷咲ひ。九人死して後。火が焼れ。りの口の中。灰
 あり。生ねが。焼る。りの口の中に灰あり。今この首級もとせれ

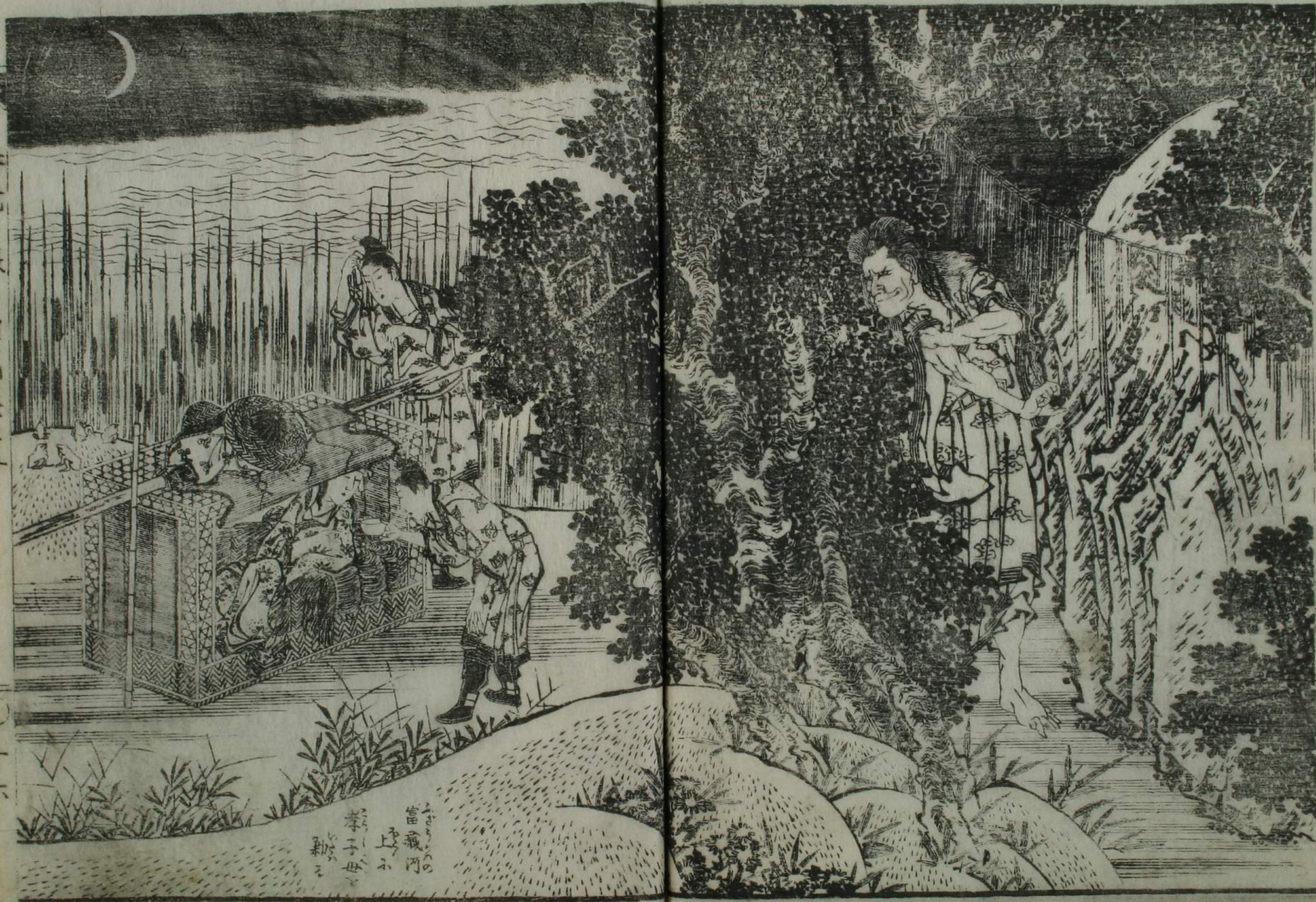
を。又ハ中へ灰にし。あざむく程にわらふも。自滅せしむ疑ひはしと
 おり。あふ毛按司の子ども。查國吉。そのもに家。火を放。塵死して
 脱と去りたる。る。ん。利勇が。か。を。り。ける。み。が。曉。ひ。る。ハ。天。當。よ。孝。子
 美男が。憐。ま。ふ。なる。べ。一。差。夫。月。日。と。い。は。さ。地。は。墮。と。逆。臣。亡。ひ。て。
 忠臣が。あ。せ。い。世。は。出。ん。ゆ。何。の。疑。う。め。ん。と。て。未。の。也。し。そ。お。り。ひ
 たり。却。説。毛。國。興。が。子。ども。鶴。亀。ハ。生。る。そ。も。死。と。る。そ。も。父。と。も。
 あと。と。い。へ。も。迹。は。残。し。る。母。親。の。い。う。み。お。り。ゆ。れ。あ。あ。ん。と。こ。ろ。
 よ。め。く。も。脱。と。出。る。と。れ。あ。い。衣。ふ。身。が。窶。し。ぬ。う。れ。怨。と。雪。ま。れ
 か。の。く。惜。う。く。ぬ。身。が。あ。ら。あ。ら。あ。ら。小。川。の。徒。涉。裙。も。袂。も。乾
 あ。ぬ。夜。行。の。い。ふ。な。つ。れ。なく。人。ふ。早。世。轎。が。あ。つ。く。か。く。や。流
 人の。路。な。れ。路。を。た。ざ。り。つ。肩。の。ほ。て。り。も。堪。が。さ。けれ。と。母。の。を。安。ん

とて兄も身も疲勞たるまきをえせと。その夜ハ越来の山中
お迷ひありし椎子ヲ捨ひとりて母はすくめ同胞もらら食てやう
中に鐵火凌た樹蔭岳の挟み身ヲ倚て。四日と過り。この
処ハ人けか山踏なれど故郷へ程らうけは久恋の地あありん
久志と金武の二回切火越り。大宜味羽地の山里へ到ら首里へ
も中城へも遠くて世を潜めお便宜するべとて同胞よく誘合
て。さて瘴の越火母新垣よりせう新垣まで。つらつらと女の
ふし。ともかくも。おん身ホウ意お任し。あふれ久志も羽地
も山北省の稍盡処あて。道いと遠しと笑くお熟な逆旅ハ
世火潜び人一個あふまご足な。十四と十二の兄が肩りて母
火移り行んと。おれとなれ所為こじ。急がせられて後ハつら

毎年ハ病づつひて。うち臥とあふねと。お持清く。死日
稀なれハ子どもハ只二人あこそ。と名ひ。熱中去年の暮より
平らうな身となりて。累る月ハ身も重く。道ゆくとも人々み
おく。年齒ゆるがれ子どもら母昇る母ハ胸苦し。と翹折
られ。親鳥の反哺おまの命ヲ替た稍瞻めて啼く。こ
ひもいそぐが身に勝べた。忘るく年火強し。のを四十ふら
くて又子火毒ハ生死の程もおほつら。とみ按司。國丹。あは流
く。匿し。いね。月陰陽師お同。か。その人志し。考て。うら驚
た。おれあり。し。腹あ。の男兒なり。生と出る。い。く。涙も。な。國
王と仰。と。あ。ん。か。れ。洪福あり。と。い。ん。も。惜。し。い。る。命。の。先。を
短し。と。い。つ。つ。を。誠。し。か。ら。お。り。ひ。が。彼。ハ。利。勇。ハ。間。者。あ。く。

按司をわしくしつらん。母かづかにしらされぬやあり及ん病おかく
 て懐妊たる母の死まで物成ありひ。多くハ年暮すくよりに。病
 煩ひありねと。寛枉お討とありひた。さうなれたりの命之強敵も又
 命なり。差かましれたるゆなれが。このあまそもしんざり。これハ原團
 子あて。父母の定うおくは。襪襪の中。北谷ある濱川の上。捨
 られたる成。おん身同胞が。祖父毛國相ひ。ひさりあひて。ひとほ
 按司お妻し。あくる。そのとれ。賜りり。九寸五分ある懐劍。當初
 汝う衣服の袖。巻添て送。おれ。おれ。のるれハ實の親れ記念
 ありん。秘書せよと。宣りせ。汝世お有が。く。あ。今りて。あ。は
 別。放。と。舅。と。ま。う。は。ハ。仲。より。字。られ。る。命。の。親。氏。の。素
 姓もあ。ね。身。が。名家の妻と。なり。あ。と。孝。行。あり。れ。子。成。二人

までりてる。幸ハあり。お。から。家。報。お。迷。ひ。出。る。か。れ。歎。れ。お。蒼。柴
 の。蒼。あ。ハ。あ。と。紅。葉。朝。細。ハ。漏。ても。轍。車。吻。く。母。を。ら。に。捨。重
 て。同胞ハ。遠。く。身。を。躲。し。時。汝。結。て。仇。を。報。ひ。團。の。為。お。忠。義。を
 竭。して。父。多。く。の。汚。名。汝。雪。め。る。と。く。と。い。も。じ。し。る。親。の。こ。う。う
 ハ。夜。の。鈴。の。聲。より。長。れ。別。と。お。り。ハ。こ。う。袂。を。絞。り。あ。ね。を。鶴
 亀。同胞。さ。ま。に。慰。さ。中。に。橋。を。擡。起。し。山路。を。北。へ。と。ゆ。く
 経。ぬ。金。峯。の。間。切。の。こ。う。富。藏。河。の上。近。く。来。ま。り。この。河。ハ
 山。北。者。第一。の。大。河。あ。て。日。暮。て。お。松。成。出。る。鶴。亀。ハ。い。と。じ。く。心
 び。う。り。ハ。あ。とも。昇。も。な。ら。り。ね。轆。車。歩。の。運。び。も。控。え。世。成。あ。の。ひ
 か。ゆ。つ。繁。薄。や。と。吻。れて。ハ。肩。成。く。え。こ。に。想。ひ。彼。首。お。傳。ま
 河。原。も。て。ハ。え。も。の。う。ん。曠。野。の。と。ま。お。日。と。暮。し。秋。の。千。種。お。宿



春風記 長門 續 卷之五

春風記 長門 續 卷之五

十五

時 子 母
孝 子 母
新

かりて。道とがら准佐したる。乾飯が石湯に浸し。五日の月と燭と
 去く。4ふ母は進ませる。うらねどに新垣へ。中かともつたおひ
 お公持り多煩しく。秋風お吹曝され。この三四日露宿し。身も
 いとこころ冷たれどもや。俄頃お産の氣つれて腸も割離る。中
 におはゆれとて物見の窓より手紙をけつ。苦痛いふへうもあは
 鶴亀はこの形勢お連忙。脊が丸折腰が捻り。信中お勸を
 ども中城を渡るとれぬ。公のそくして。茶割のそり忘さる。お
 母して子お産りのあや。えもなれぬ同胞が。あるにうひなれお抱も
 ころれうのうれ暮積の蔓疾みあふなりあんと。いひ慰む折
 しもあれ北谷の阿公と。曩お中婦君利勇おが奸計お同意し。
 窓に土女を失んぬ。辰の年月日時は生れさる。か子お慕て攝じ。

海神があまり多と。ええあづ。緯既お伎倆の疎お入る人とせし。阿公地
 毛國お小者破せられ。隠謀を地は發覺して。その罪おのが第一
 お保り。中て北谷お追放せられ。とりとも。利勇竊おこれを扶持し
 て。あう。躲しおたれお。毛國お討れて。お忌憚るからもゆらゆら
 新勇へ阿公お曝雲か謀と説き。この件のゆらゆら。何せし。あ
 阿公の只おひとり。彼此を徘徊し。はくさずもこの処お来り。して新垣
 母子が為体を。闕窺既おその産の氣は。さうれをありて。ふかく
 飲ひ。中て樹蔭に立出つ。行るる。うひして。橋の内へ。こへり。あ
 痛し。旅寝お宿を。索る。て。病。つら。人。お。こ。こ。兄。公。ら。其。知
 退る。味。が。かり。て。看。病。進。ら。と。し。と。信。ら。て。ほ。と。り。近。く。ま。さ。る
 つ。これと同胞へお放さ。は。あ。の。程。の。固。辞。し。が。熟。視。と。ハ。牙。の。こ。え

む賤^くかぶ^り年^の齡^{七十}可^うる^{らん}と^おぼ^した^らば^あぢ^いと^尋
 此^れが^介抱^をひ^く母^を看^病さ^もづ^らん^をあ^らす^にも^あぢ^いと^尋
 思^ひて^務が^いや^らず^に吾^等俯^ハ越^来未^だ行^近た^何が^しの^里人^{なる}が^父を^近
 属^ガま^うり^てら^るみ^ん初^七の^速夜^あて^りん^が母^ハ平^らま^なね^がよ^し
 の^れど^墓系^せま^しと^いふ^お已^こと^がひ^びを^轎お^扶乗^{して}マ^{この}
 知^ます^て身^は折^る猛^お産^の氣^つれ^いと^まぢ^いあ^つれ^まる^る
 され^茶割^のあ^らが^あつ^れし^と叮^嚙母^共ふ^かと^口説^どま^は
 くら^れな^すと^母子^がう^への^漏じ^とま^の袖^すす^ら涙^ハ畏^難ら^るる^る
 腹^を撈^て阿^公赤^子が^棄れ^ぬ
 棺^を流^て鶴^龜亡^父が^見れ^ぬ
 その^した^阿公^ハ縁^由を^告て^頓も^そら^涙を^押拭^ひか^られ^曠野^あて^て

第四十三回

母^公小^産の^氣は^れぬ^人が^おま^じこ^らな^れ少^年の^介抱^もあ^らぬ^は
 せ^どと^公母^とが^推量^との^痛く^こそ^竹な^れむ^じ波^かの^親
 親^{なる}の^方技^をり^て活^業と^しれ^ば難^産子^の生^一や^らぬ^も
 此^を忍^なれ^て信^る生^穂波^女あ^らま^をか^さも^あら^んま^じその^中を^え
 え^せま^へと^いひ^うけ^て鶴^龜が^迹居^らる^る轎^の裏^へま^ぢい^入
 と^ま新^垣が^胸さ^うが^拉お^り十^の指^の腹^をら^ら返^し診^つま^ぢい^と
 ろ^ら案^じこ^の今^も考^へた^まう^なり^まう^れも^夕露^ふそ^がら^うて^い
 く^冷め^ひわ^れが^輒く^の産^がこ^けん^り茶^の力^を借^まあ^らぬ^の産^人
 母^の氣^はよ^うと^まく^或ハ^交骨^用と^或ハ^胞衣^下ら^ぬいと^難産^人
 及^ぶが^し且^ふ兩^足し^ら腫^あら^うて^脚の^指の^間は^黄水^のり^かれ^ば則^ち
 子^氣の^症也^らま^じの^方劑^のう^けと^その^醫師^のま^らね^ばよ^うと^そ

ちりしに只速お催生湯を用ひて。催生湯の桃仁芍薬牡丹皮茯苓
 肉桂の五味を等分おのしては。この方ハ即仲景が桂枝茯苓
 丸にして。世俗のそめとらありの是なり。この丹ハ北へ出たるは。富
 苑河とせつ。ゆけが。薬店あり。やよ見公月も没果るべ路のほど
 便つらん。そりく彼処へ走りゆれ。薬割買りて耳多入りし。しそ
 がせが同胞ハもろく慌忙たつ。持がらあやう。これハ富苑河とや
 らんのはよりいひたれ。件の薬割を買ひて耳つば。家多を
 ちりしも母のほより。離とせ。よく看病多と。いひもめぞ北
 投てぞ走去られ。且し阿公と。高女に香らち鳴じ。鈍や。や
 のまうに火急なる故。いへたるもいへざり。彼五味の藥物の中
 桃仁ハよく妙芍薬ハ赤れりのおあ。これハ功能ハ。見公ハし。

遠くもゆじ。さうてあつしひも人。そ追ひま人と焦燥あぞを
 いとらんとまかひて同胞らも母公の傷。離とんハ。い
 んがとて勧る。茶割。切能なるハ。化ひなり。ち。そやよんかくや
 せん。と。年母ハ勝れ。怜れ。あ。ひ。或。つる。き。え。を。ん。く。阿公と。赤
 あり。ち。この。二。所。金。が。尻。の。お。り。と。よ。おん。あ。ん。と。う。幾。十。人。うち。守
 了。く。され。ば。と。て。か。れ。所。の。要。め。た。と。ど。り。一。般。く。が。憐。れ。ん。つ
 親。殺。を。べ。た。あ。あ。う。ね。ハ。夜。行。が。怕。し。く。て。軟。そ。や。ゆ。れ。ま。人。と。叱。ら。れ。て。
 い。さ。も。も。い。り。と。縮。む。し。ち。冬。蟲。指。く。草。の。あ。あ。踏。ら。し。ひ。て。走
 了。ゆ。阿公ハ。龜。ハ。後。影。木。が。う。う。ま。て。目。送。り。果。て。新。垣。お
 對。ひ。て。い。ふ。や。う。い。と。苦。じ。け。あ。ハ。え。え。ま。人。と。波。か。が。い。あ。り。あ。よ。く。笑
 多。人。が。寿。の。氣。ハ。け。さ。る。が。目。今。せ。る。へ。う。も。あ。ら。ん。聖。の。朝。の。朝

あつては。とあつて今もあれ同胞の少年がまゝに便するの
情も。とどろりみては。病は。かゝる腹する子の欲けしむ。律の
中う。竊は。てかく。信守。あつた。歎。結。の。と。腹。小。子。あ。つ。た。ハ。え。え。の。も。せ。
ゆ。と。理。か。ら。る。の。ひ。な。れ。と。三。十。と。紙。く。る。難。産。ハ。大。く。の。生。ま。じ。あ。く。苦。
痛。成。せ。ん。より。あ。れ。方。と。あ。ひ。涕。り。て。腹。を。裂。し。て。見。成。し。ん。あ。う。せ。よ。
と。て。つ。懐。お。小。劍。の。あ。る。の。ん。に。め。より。探。り。あ。て。よ。く。あ。り。て。信。
お。り。それ。貸。す。人。と。し。ひ。う。けて。襟。の。間。よ。ま。と。に。入。を。引。出。を。劍。の
衣。の。細。お。携。ア。と。新。垣。ハ。苦。し。げ。る。息。下。ハ。阿。公。が。ら。ら。瞻。り。縁。故。ハ
あ。つ。ね。も。腹。する。見。も。何。え。せん。母。が。命。も。惜。く。ね。ど。子。と。産。ま
て。死。と。る。の。ハ。怪。し。た。鳥。は。生。成。く。え。雨。の。夜。毎。お。迷。ひ。出。ると。笑。と
め。も。罪。障。あ。つ。た。後。の。世。ハ。と。ま。れ。か。も。れ。今。つ。る。と。と。ろ。の。子。も。ら

が。父。ハ。喪。ひ。又。母。が。人。の。為。お。殺。さ。し。と。も。あ。つ。て。買。り。て。来。れ。
催。生。湯。の。な。も。も。似。と。未。期。の。水。も。あ。つ。り。せ。た。と。て。な。ま。
形。く。あ。つ。ん。惜。く。ね。命。を。惜。む。それ。も。と。う。な。子。の。あ。の。鳥。夜
暗。れ。より。く。れ。お。迷。ふ。成。憐。と。ん。え。ま。つ。ど。や。産。落。し。後。は
こそ。この。見。成。進。む。は。べ。れ。せ。た。と。か。れ。口。説。バ。阿。公。ハ。耳。を
は。し。よ。せ。何。ら。ら。ら。中。ら。蚊。の。う。う。む。う。り。お。る。声。し。て。若。く。も。耳
へ。よ。く。も。ぞ。え。ぞ。阿。お。ん。が。ハ。果。報。め。で。た。人。く。し。し。土。偶。ハ。對
ひ。て。も。ひ。ち。ち。と。さ。れ。る。の。あ。の。め。ね。ど。こ。て。も。か。く。て。も。今。殺。ま。
その。耳。へ。せ。ま。る。ん。冥。土。の。餞。別。惜。ら。も。あ。ら。じ。こ。よ。な。た。岐。多。く。が
情。あ。こ。そ。い。う。な。れ。人。の。妻。も。あ。ら。ね。ど。腹。する。見。ハ。お。ほ。け。あ。く。も
琉。球。國。王。の。世。子。と。仰。と。貴。れ。と。万。民。の。父。母。と。し。て。富。三。省。と



跡しかくのよめとて。血を拭ひ刃がけて鞘に納め腰
 小跨に懐小。赤子の揺賺し足母信して逃去ぬ。かくこもる
 て鶴亀ハ四五町。河を渡され人家もあらず。富翁河へい
 みて彼処ある茶店。河を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 かん。ところ疑ひ同胞途より。乾箱守る公利火。火
 びく。蕉火小路をて。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 賢くは公。安らして。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 西次。株小。足を傷られ辛じて。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 赤子の泣声。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 小な。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 火を抗。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火

の中に。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 且悲。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 且て死。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 ひ子。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 面。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 鬼。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 及。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 子。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火
 息。火を渡され人家もあらず。乾箱守る公利火

左のぐる裳を引とぐぬ。やよはるる人ぬが志はさるるりなれど。野干玉の
 くらねぬ仇人の往方と見えとあはれて。逐ふともいふそ及ぶべし。這奴が
 面ハつれも認まらう。あはしが程ハ脱るゝとも。天の羅ハえも漏レ。執心
 不追んとして却て仇に謀るれらば。士心もいさづらねん。生る日乃
 羞よりも。えんが。死なせ。いと恥しめるあり。と答へて。生平
 母宣ひた。妙まじと母の亡骸を人ふんせんハ不孝也。とくくおきぬ
 進んでせん。といひ諭しつ。けうともい枕方後方よ立對ひ。あつじとそ
 且どうの蟬の。うらうら夢うらうらも。後あもあられ。化野の露。お先
 づらるる母の空に骸ふ。うら子か常るれ。風を身あそむる。茶毘
 ぬ。あふぬ。蕉火の。暗に迷を照つ。ひや。と。ややく納る。轡を指ふ
 換る。桐の杖折して。かひなれ。母の恩おくらんとする。よ。添重く。りろ

肩入とて。昇揚とて。と。あひ逼りて。哽咽る。兄ハ銜珠の病る。鶴身
 ハ浮木。小漂の。亀の生死流轉も。眼前富藏河を投て。急とる。
 このとたまて。琉球國ハ土葬。火葬の葬式も。水葬の。と。りそ
 とせ。く。鶴亀ハとくして。母の亡骸。河原へ昇ゆ。行ぬ。天を
 しのぐと。明く。貧乏の。足の。こころ。あもあはね。貧乏
 を。生平と。それ。憂ふ。堪る。りも。あれ。親愛上。按司と。呼れ。る
 人の子か。その母。花弁。棺も。お。導師も。あ。て。同胞。これを
 昇。母。早。友も。なく。鳥。鳴。と。犬。送。られ。や。や。水際。轡。お。り
 居。く。この。あ。の。これ。を。あ。い。出。し。て。浅。す。れ。り。あ。べ。ら。も。あ。い。て。此
 河水。の。涸。る。こ。も。沈。瀾。の。乾。く。漱。ハ。あ。は。じ。と。て。同胞。あり。とも。み。う。た
 け。説。て。し。り。る。ん。抑。家。公。ハ。鯁。忠。母。して。志。づ。く。君。を。諫。め。國。の。患。を

りて牙の患としまるふ良業却若しと厭と寛枉小命と限し
 家壊と妻子眷属離散して操節正した母公人杜騙殘妻
 なる老婆小殺されて胎内の子死なれ親の像見なりと
 年及秘蔵し多しと宝劍併集ひ去られ過世の中は業
 因なり。およその誠あるりの成神明なるとは衛めふと人もひ
 くれもあつとひつらふ。その虚言あてありと老弱不定常な
 世中病てしなしくなり多らふとあつとあれるもあらんよ五日が回
 二親るがら非命あるの世を去りて迹小残とる憂月のとら
 何処へ流しゆく秋のわしの木の葉かくすては凋落果ては追薦
 も公むうりに手向の水を受ゆと之熱の苦艱を脱と六觸乃
 汚穢を雪め人水清されは魚住と風静なれば船行と限か

哀別夜鶴詠小悲鳴と捨がら情愛生龜筒脱落を公焦
 と腸腐と哀戚の歎言下に盡さるるは眞をらけ人
 まつり了て同胞の河原に撲地と帳時声を惜と泣まら。且し
 て。りあとも自身を起しうひなれり言人や笑く。さな泣き
 歎と送小諫め勵しゆたかへね河水へおろして流を轆も
 これやこの世の別とぞとおり人の憂を十寸鏡が教人も由
 めんぞ波のまみく流とゆ。河隈遙目送りつ。潜然とし
 合掌し伏拜む脊のかと小物の倒とわが中であて忽地撞と響
 うが鶴亀のうらら驚れその何ぞとて見えにいうゆと大男刃
 を抜うけて仰さまに仆と血気吐く死するにけり。緯のる体
 不審とて兄もせもまら上おまらつ。熟視れふ年及父



宮藏洞
電母
水葬

春兌弓長月讀

七六

木言日昆月紀卷之五

九五

毛國典はつくにんははしこれ。老僕らうぼく握にぎ翁おきな報うらひとひかりのぞり。救すくみべくりやとて
 龜かめハ母ははを引ひ起おこして。呼よび泣なんとするを。鶴つるハ忙いそしく推おしとらぬ。豺さしか狼ろうを死し
 ころとも。かろしく近ちかづくべう。此こゝ這は奴やつハいぬる日ひ。恩おん高たかに主しゆより先ま
 小中城せうちゆうじやう以も逐しゆ電でんあつるふ。今いま故こゝあててころふ事ことあり。刃やいば技わざけけて作つく
 したる為ため。作つくが同胞どうぱうの首くび取とり。身みの頼たのひを求もとんとせし疑うたがひ
 なし。さればその暴ひら悪あくを憎にくしとて。君きみ真ま物ものの蹴け殺ころし。あふあやあふん
 ずい。勢いきほ憐あはれとあふ。と凡つま彈たまして説と諭ぎせむ。龜かめもげあ。と白しろ旗はた折をり
 う。風かぜは戦たたかぐ柳やなぎの葉はの。さうくと散ちりる。我われを同胞どうぱう育そだて。仰あやされば
 樹こゝろの下もとれ。小こ高たかに処ところは。噤しん嚙せつとして。立た在あり。のあり。その打うち拵しやう紫むら綾あや乃なり
 官帽くわんぼうを載のせ。深こゝろ音ね多たの。袍ちゆうを被かき。龍幡りゆうばんの紋もんの。黄きなる。帶おびは結むすひ。
 描ま金きん鞆たもの。劔けんを引ひ提ひ。毛國典はつくにんが在あり。世よの面影おもかげふ異ちがふ。あつりの

子こどもハこれを。あまづが父ちちあておし。さう。さて。あ急いそる。て。壁かべを
 軟か鶴つるあて。つり。龜かめあて。つり。と名な告つ。呼よび。慌あわ忙そた。走はり。あふ。さう。
 それハ。忽たち地ぢ消きえて。又また。朝あさ霧きりふ。ええ。つ。か。江えの石いし。小こ將しやうが。と
 厭いとり。で。其その処ところ。う。足あし。処ところ。と。追おへ。ハ。逐おり。秋あき風かぜ。小こ声こゑ。呼よび。く。と。河か鴨鴨哀あは
 且かつ。い。く。で。あ。波なみ高たかに。富ふ新しん河か。遠とほく。走はり。て。ゆ。く。とも。あ。ら
 ぞ。北きた谷やと。荒あ谷や山さんの間ま。た。高たか志し保への。浦うら。感あはれ。ひ。ま。つ。こ。の。と。れ
 夕ゆふ陽やう海うみ。没もて。秋あきの。暑あつの。短たかれ。を。あ。る。とも。こ。の。何なに地ぢぞ。と。同どう胞ぱう
 面おもて。あ。ら。ら。わ。い。し。それ。も。あ。ら。て。忙いそ然ぜんと。う。

椿説弓張月續編卷之五畢

